

令和3年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会議事録

1 開催日時 令和4年3月5日(土)午前10時~11時5分

2 開催方法 オンライン(Zoom)

3 出席者

【委員長】 牧野 昌子

【委員】 齊藤 恵子

田島 則行

高岡 明美

松井 秀明

林 孝治

山野井 武

野村 浩一

【事務局】協働経済部 部長 片岡 利江

次長 江川 幸成

協働政策課 課長 大竹 博和

係長 柴野 夕子

副主査 佐々木 康太

【発表者】 2人

【視聴人】 5人

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 審査 (1) 令和4年度習志野市市民参加型補助金二次審査について

5 会議資料 令和3年度第1回習志野市市民参加型補助金審査委員会に関する資料

※別添資料

会議次第

資料1 習志野市市民参加型補助金審査委員会スケジュール

資料2 令和4年度習志野市市民参加型補助金 申請事業一覧

資料3 令和4年度習志野市市民参加型補助金の採点について

資料4 市民参加型補助金 二次審査採点票【記入例】

参考 ・習志野市市民参加型補助金審査委員会設置要領

・習志野市市民参加型補助金審査委員会委員名簿

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

林委員、野村委員

第3 審査 (1) 令和4年度習志野市市民参加型補助金二次審査について

【大竹協働政策課長】

資料1、資料2、資料3、資料4について説明。

※質疑なし

【きらっといっぽの会】

申請事業について説明。

【野村委員】

対面での事業実施、紙媒体での啓発活動以外にインターネットを活用する考えはあるのか伺いたい。

【きらっといっぽの会】

現在、インスタグラムは活用しており、ホームページは作成中である。その他の SNS の活用も今後検討していきたい。

【田島委員】

障がいのある子どもたちの人数は把握しているか。

【きらっといっぽの会】

はっきりした数字はわからない。

【田島委員】

チラシ配布部数から考えると、困っている方が多くいるのは、感じているのか。

【きらっといっぽの会】

感じている。

【田島委員】

サポートするにあたって、プライバシーに配慮することが必要である。他の人に聞かれないような状況で双方向のコミュニケーションをとることができる場があるとよいと思うが、そのような考えはあるか。オンラインサロンのような仕掛けがあるとよいのではないかと思う。

【きらっといっぽの会】

コロナ禍では対面で行うことは難しいと考えている。そのため、SNS の活用を考えている。

【山野井委員】

あたたかく見守って欲しいということは理解したが、そのような状況に遭遇した場合の対応について伺いたい。

【きらっといっぽの会】

障がいによる様々な特性があるが、困っている様子、危険と思ったら声掛けをしていただきたい。

【松井委員】

なかなか差別解消について進んでいない状況である。貴重な取り組みだと思う。

周知活動の中で、子どもと多く関わる大人に知ってもらいたいとあったが、幼稚園等の先生へのアプローチ、ひまわり発達相談センターとの連携は有効であると考えます。

【歌とダンスで楽しく考えよう!環境問題プロジェクト】

申請事業について説明。

【牧野委員長】

ダンス動画の QR コードをチラシに貼りつける工夫をするとよいのではないか。予算化している DVD も学校等での活用を考えると必要であると思う。

【野村委員】

歌とダンスで興味を持ってもらうことは新しい視点である。

今後、様々な団体と連携し、輪を広げていけるとよりよい活動になると思う。

【田島委員】

プレゼンテーションの中で、環境問題をダンスで考える必要性について説明が無かったので説明いただきたい。

【歌とダンスで楽しく考えよう!環境問題プロジェクト】

環境問題については、テレビなどで取り上げられているため周知の事実と考え省略した。

プロジェクトの焦点を小学生に絞っている。ダンス、歌についてはコロナ禍で体を動かす、歌うことができない中で学校では音楽や体育の授業で踊る時間を設けており、子どもたちが生きいきとしている状況がある。頭だけで考えるのではアイデアが出てこないことから体を動かすことで良い発想や笑顔が出るのではないかと考えている。

【田島委員】

環境問題を考えることよりダンスを踊ることが大事と受け止めた。環境問題が主であればダンスを踊らなくても考えることはできるのではないか。環境問題とダンスの繋がりについてしっかりと説明したほうが理解しやすかったと思う。環境問題とダンスの繋がりが不明確との印象を受けた。